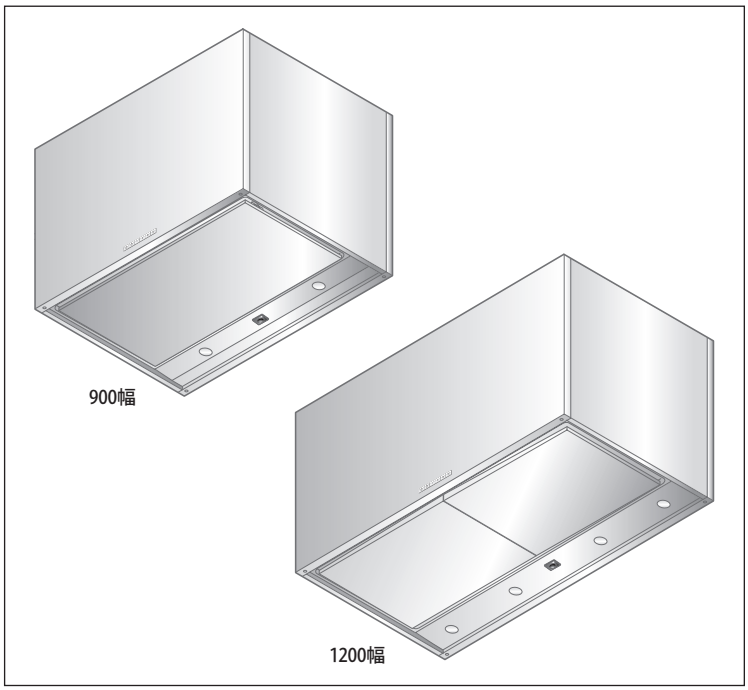
レンジフード

取付説明書



もくじ

安全上のご注意……2～3
取り付け上のお願い……4
取り付け前の調査と準備……5～7
各部のなまえ……8
付属品……8
製品寸法図……9
取り付けかた……10～20
1. 付属品の確認……10
2. 本体の準備……10～13
3. 本体の取り付け……13～15
4. ダクトと排気用部品の接続……15
5. 電気配線……16
6. 前板および後板の取り付け……17～18
7. 整流板の取り付け……18～19
8. 試運転……20
9. お客様への説明……20

販売店・工事店様へ：
この取付説明書は取り付け後、施主様へ必ずお渡しください。

取り付け前に「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。

1B03 4782

安全上のご注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の２つに区別しています。
  いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

⚠ 警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

⚠ 注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

⃠ 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠ 警告

分解・修理・改造禁止

● **修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと**

発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります

取付注意

● **排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと**

火災などの原因になります

取付注意

● **配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと**

誤った配線工事は感電や火災の原因になります

アースを取り付ける

● **アースを確実に取り付けること**

故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください

取付注意

● **メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けること**

漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります

取付注意

● **本体とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと**

火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください

安全上のご注意

⚠ 警告

埋込禁止

● **レンジフードの壁への埋め込みはしないこと**

漏電した場合、発火するおそれがあります

取付注意

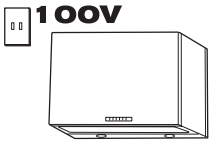
● **レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること**

漏電した場合、発火するおそれがあります

使用禁止

● **交流 100 V以外では使用しないこと**

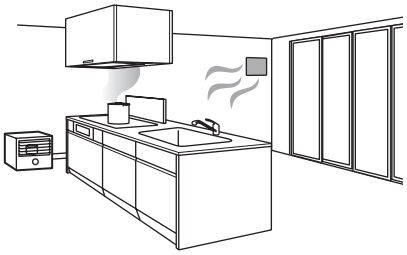
火災・感電の原因になります



取付注意

● **自然排気型のストーブを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮をすること**

排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります

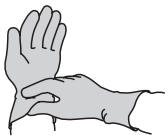


⚠ 注意

手袋をする

● **取り扱いの際は必ず厚手の手袋をすること**

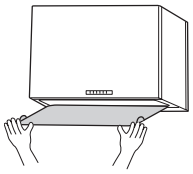
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります



取付注意

● **ファンや部品の取り付けは確実におこなうこと**

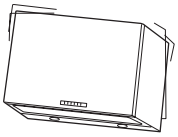
落下によりけがをするおそれがあります



取付注意

● **レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと**

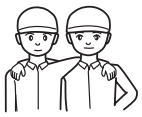
落下によりけがをするおそれがあります



取付注意

● **作業は下記の人数で行うこと（900 幅：2人，1200 幅：3人）**

製品はおよそ 47kg（1200 幅の場合は 55kg）の重さがあります。



使用禁止

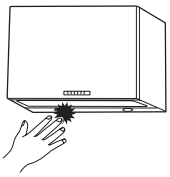
● **浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください。）**

感電および故障の原因になります

接触禁止

● **運転中は指や物を絶対に入れないこと**

けがをするおそれがあります



取付禁止

● **周囲温度が 40℃以上になるところには取り付けないこと**

火災・故障の原因になります

取り付け上のお願い

● **下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。**
・大工工事
（設置のための下地工事等）
・配線工事
（コンセントの設置、コンセント・コネクター利用以外の配線接続等）
・管工事
（ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等）
流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。

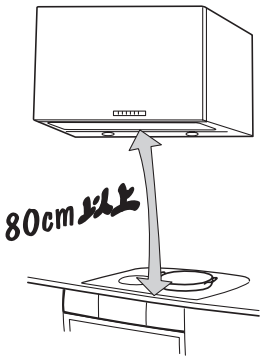
● ダクトの不燃処理について
・ ダクトを 50mm 以上の不燃材料、または 20mm 以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
・ 施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」・「検査要領書」に従ってください。

● 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。
調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率が低下します。

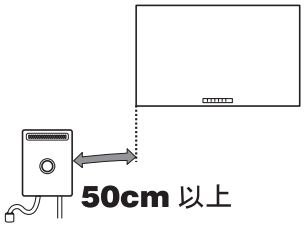
● 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は 400m^3/h 時 50Pa 以下のものをご使用ください。
防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。

● 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいちじるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。

● 製品は調理機器の真上に取り付けてください。
なお、製品取付高さは、製品の下端が調理機器の真上 80cm 以上になるようにしてください。



● レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けないでください。また、横方向 50cm 以上離して取り付けてください。湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。



● 部屋の中央で調理される場合は油煙が捕集しきれませんので、お台所の全体換気のために他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。

● 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm^2 程度の空気取入口を設けてください。

● 寒い地域ではダクトが結露し本体内に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。

● 電源は専用のコンセントおよびブレーカーを設けてください。火災・故障の原因になります。

● 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。

取り付け前の調査と準備

⚠ 警 告

分解・修理・改造禁止

● **修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと**

発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります

取付注意

● **レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること**

漏電した場合、発火するおそれがあります

取付注意

● **本体とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと**

火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください

埋込禁止

● **レンジフードの壁への埋め込みはしないこと**

漏電した場合、発火するおそれがあります

取付注意

● **排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと**

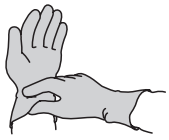
火災などの原因になります

⚠ 注 意

手袋をする

● **取り扱いの際は必ず厚手の手袋をすること**

鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります



取付禁止

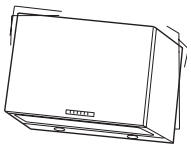
● **周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと**

火災・故障の原因になります

取付注意

● **レンジフードは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと**

落下によりけがをするおそれがあります



取り付け前の調査と準備

1 取付箇所の強度確認

製品を支える強さが必要です。

製品単体質量	
900 幅	47.0 kg
1200 幅	55.0 kg

＊製品高さ 700 の場合

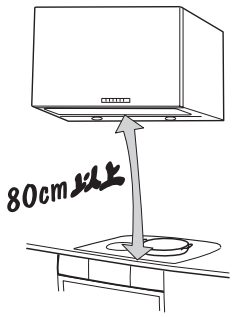
2 別売部品の準備

排気工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。

3 標準取付寸法

本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面から製品の下端まで 80cm 以上です。

※ 火災予防条例では、グリスフィルターの下端が調理機器の真上 80cm 以上必要となっています。

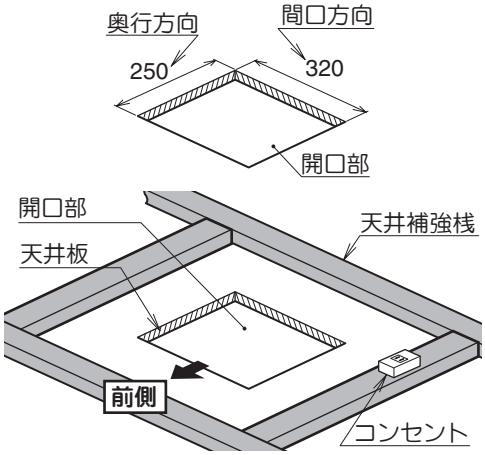


4 天井面への穴あけ

1）右図を参照し、天井面の本体を取り付ける位置に間口 320 × 250mm の開口を開けてください。
また、天井開口部近くに専用コンセントを設置してください。

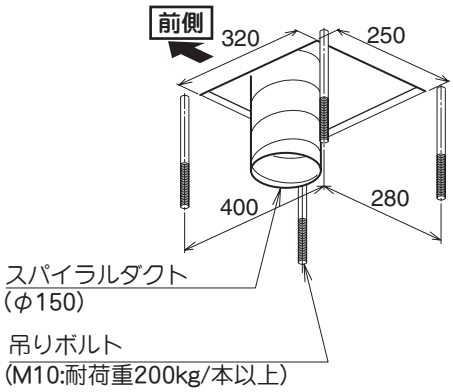
2）前板・後板を取り付ける部分を補強桟で補強してください（次ページ取付要領図参照）。

※ 補強桟は野縁・野縁受け等に固定してください。



5 吊りボルトの取り付け

M10 の吊りボルト（取付作業者側手配）を 4 本、天井内の梁などの頑健な部分に固定します。固定ピッチは前後 280mm、左右 400mm です（次ページ取付要領図参照）。



取り付け前の調査と準備

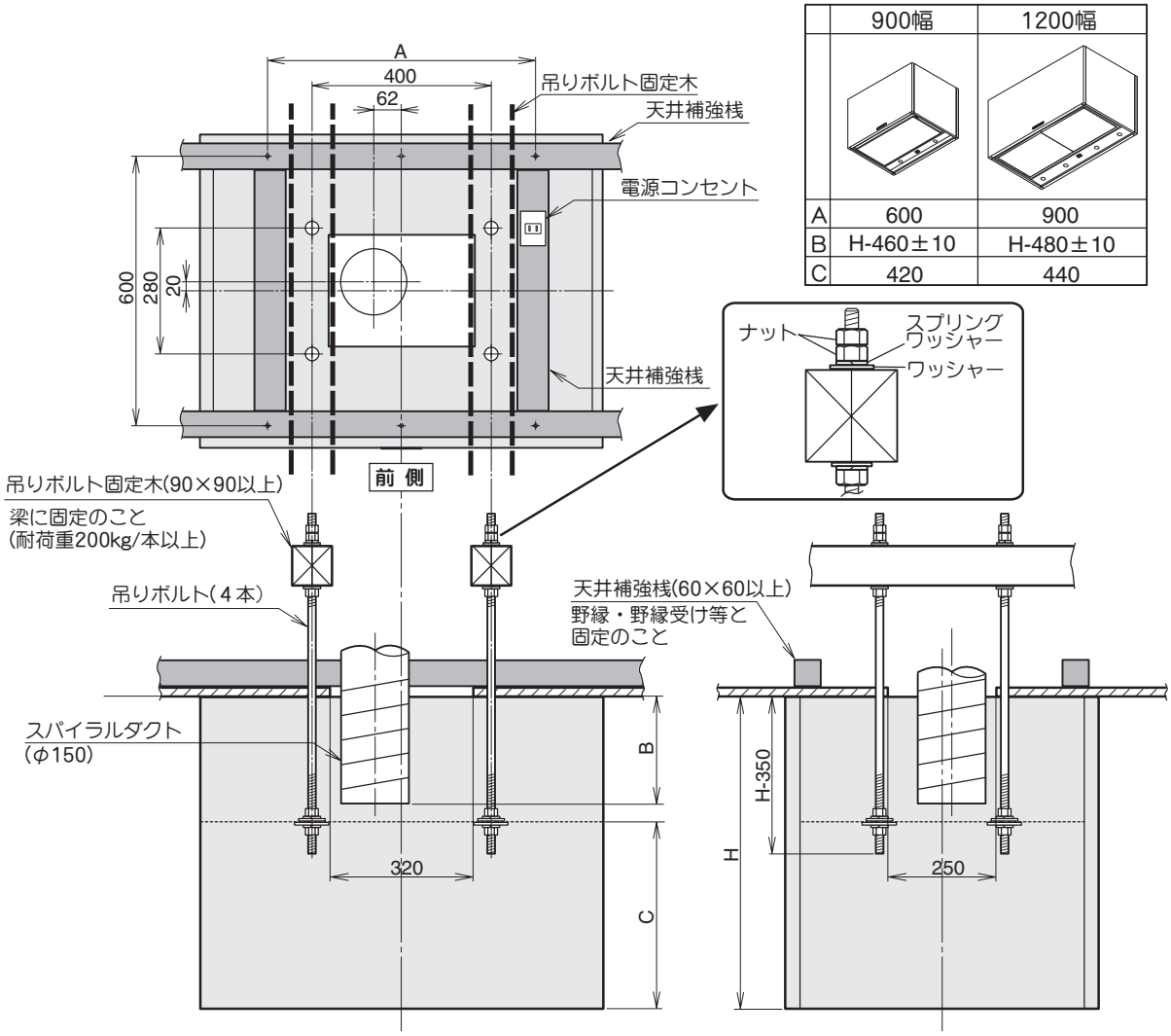
6 排気ダクトの取り出し

φ 150 のステンレスダクト、またはスパイラルダクトを図のようにレンジフードの上部に突き出すようにセットします。

お願い

ダクト工事は管工事業者（法的有資格者）へ依頼してください。

■ 取付要領図（単位：mm）



	900幅	1200幅
A	600	900
B	H-460±10	H-480±10
C	420	440

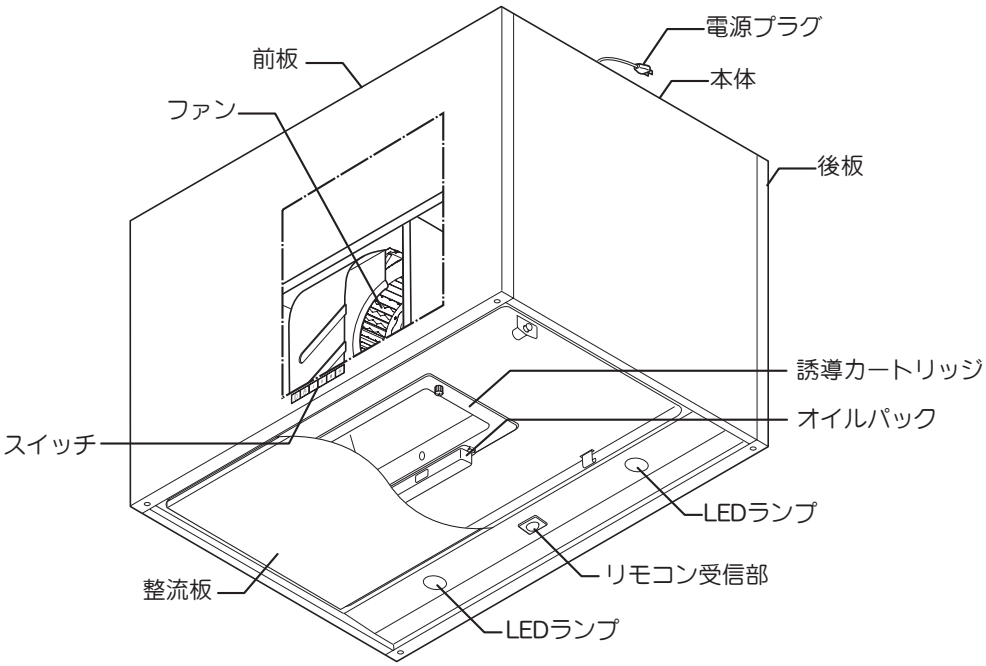
例（単位：mm）

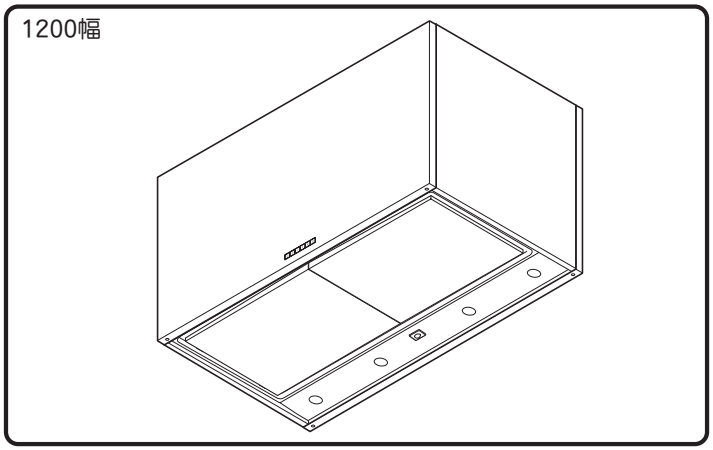
H: 製品高さ	B: ダクトの突き出し長さ（±10mm）		（H − 350）
	900 幅	1200 幅	ボルトの突き出し長さ（±10mm）
600	140	120	250
700	240	220	350
800	340	320	450
900	440	420	550

7 電源コンセント・ブレーカー

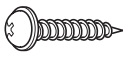
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相 100V）
コンセントは、JIS C 8303 2 極差込接続器 15A 125V をご使用ください。

各部のなまえ



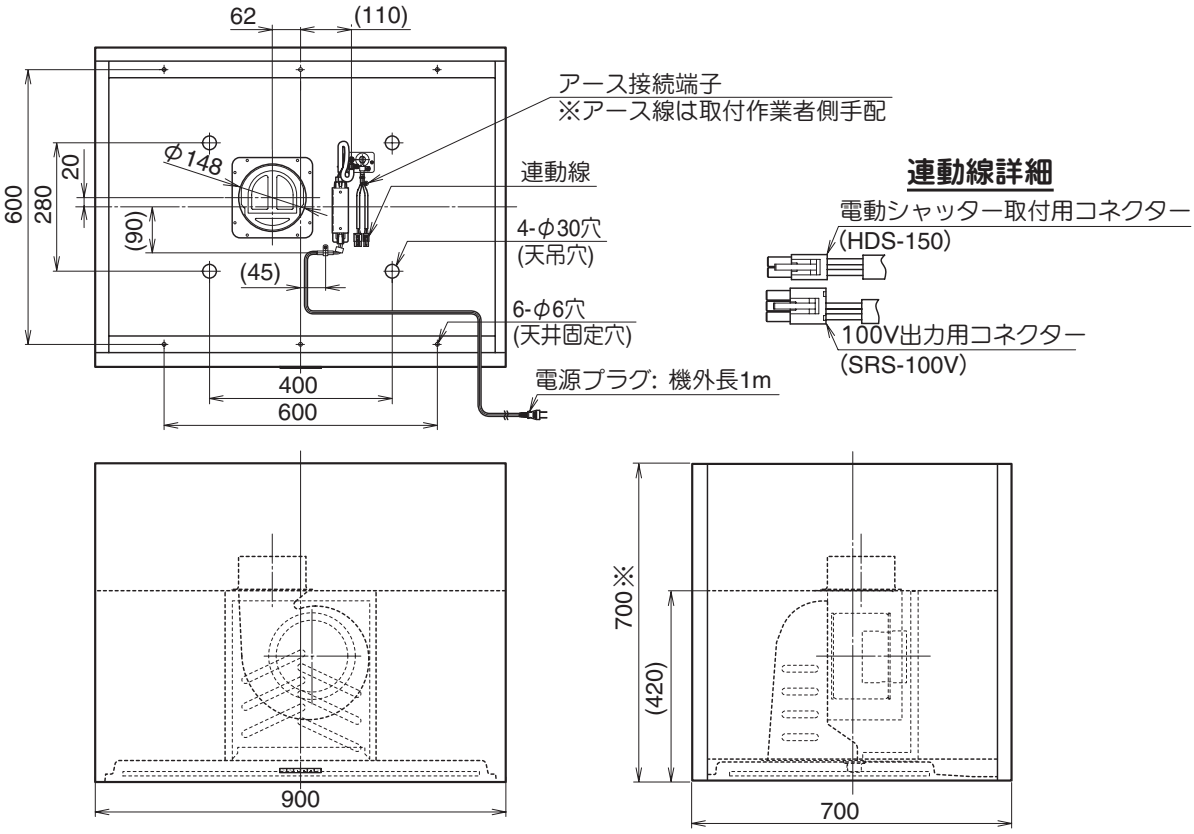


付属品

	ワッシャー（4 個） （外径φ 45, 内径φ 10.2）	本体の取り付けに使います。
	SP ワッシャー（8 個） （M10 用）	本体の取り付けに使います。
	U ワッシャー（4 個）	本体の取り付けに使います。
	**座付ねじ（6 本） （φ 5.1 × 25）**	本体の取り付けに使います。
	ソフトテープ（1 本）	排気口とダクトとのすきまをふさぐのに使います。

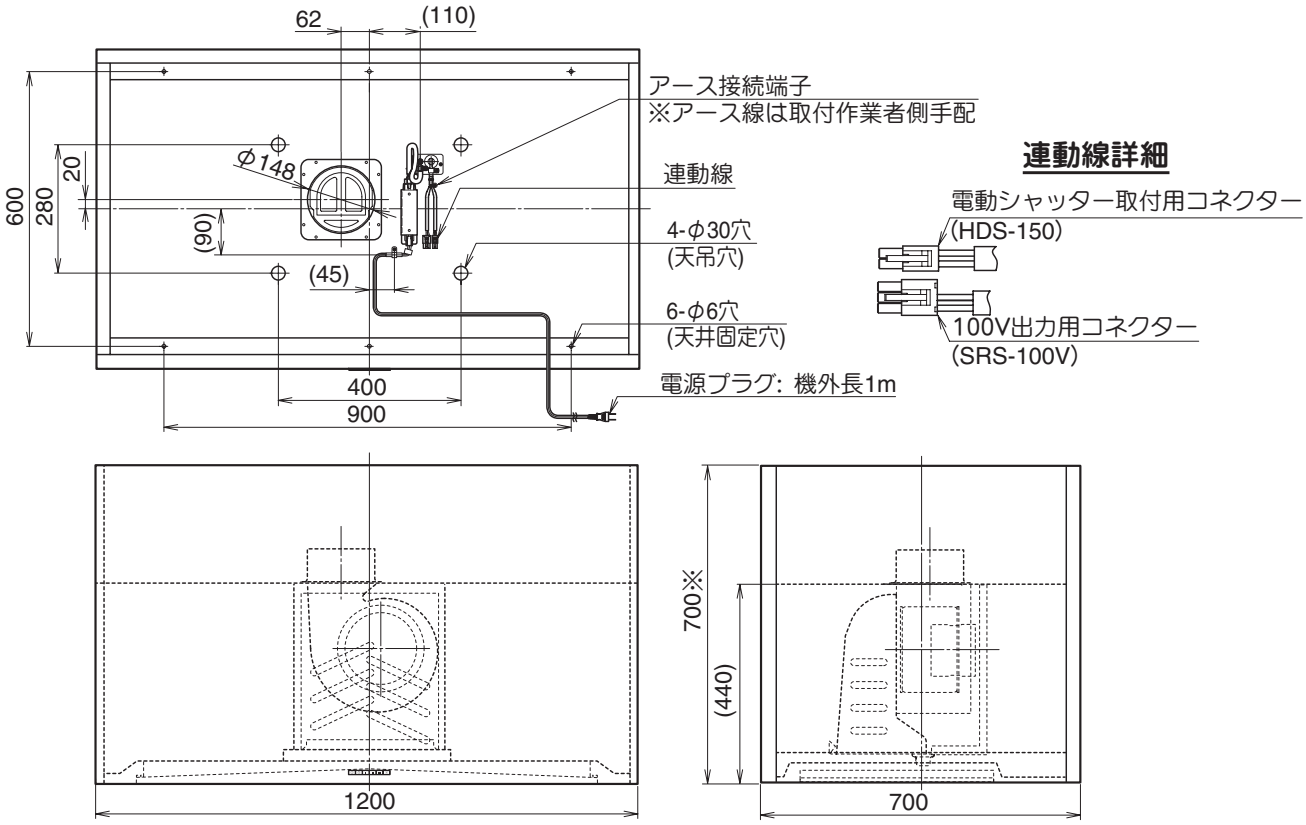
製品寸法図 （単位：mm）

■ 900 幅



※：高さ寸法違いは特注対応とし、
対応可能範囲は600mm～950mmとする。

■ 1200 幅



※：高さ寸法違いは特注対応とし、
対応可能範囲は600mm～950mmとする。

取り付けかた

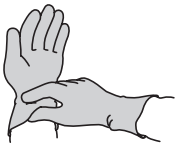
1. 付属品の確認

⚠ 注 意

手袋をする

● **取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること**

鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります



付属品を確認します。

梱包箱から付属品を取り出し、前ページに記載されている付属品一覧により不足がないか確認します。

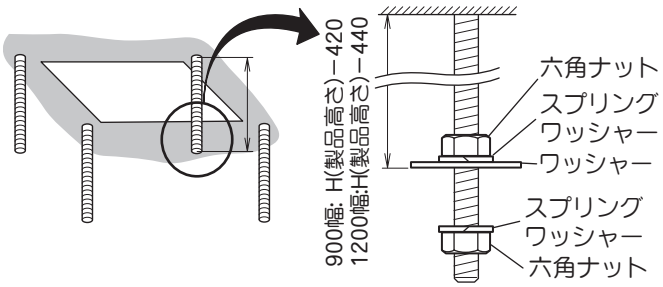
お願い

・取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。
・床で作業する場合、本体および床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。

2. 本体の準備

1 **吊りボルトにナット、ワッシャー類をセットします。**

4 本の吊りボルトに図の要領で六角ナット（取付作業者側手配）、スプリングワッシャー、ワッシャーをセットします。
上側のワッシャー位置は天井面から；
900 幅： H（製品高さ）－ 420
1200 幅： H（製品高さ）－ 440
となるようにセットします。



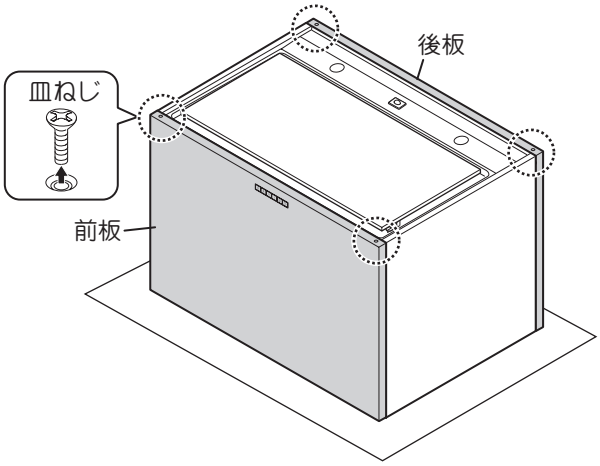
2 **本体の保護材を取りはずします。**

製品の保護用クッション材と固定テープを一度取りはずします。
※ 製品保護のため、取付完了後に再度使用します。

取り付けかた

3 前板および後板をはずします。

1）左右の皿ネジ各２本をはずします。
はずしたネジは組み立ての際に使用しますので、無くさないよう保管してください。

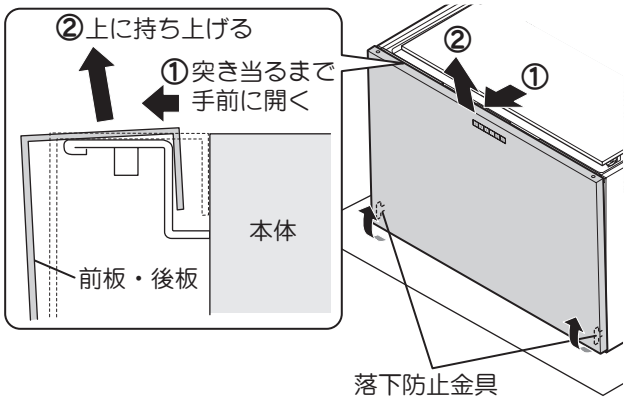


お願い

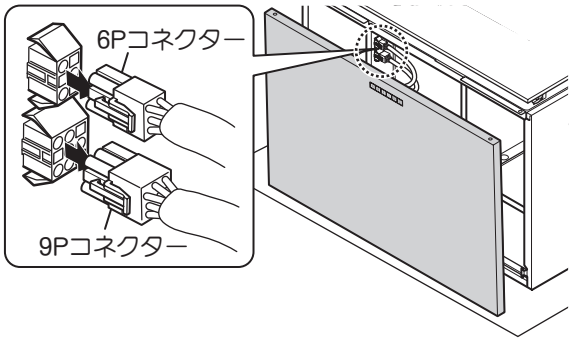
皿ねじをはずす際は、ねじ表面を傷つけないよう注意してください。

2）前板（後板）を突き当たるまで手前に引き出します。

3）両側角の落下防止金具をよけるように上に持ち上げてはずします。



4）前板側に接続している２ヶ所のコネクターをはずします。



お願い

コネクターのはずしかたについて

コネクターをはずす際は、ツメの部分を押しながら、まっすぐ引き抜いてください。
無理にひっぱると断線するおそれがあります。

取り付けかた

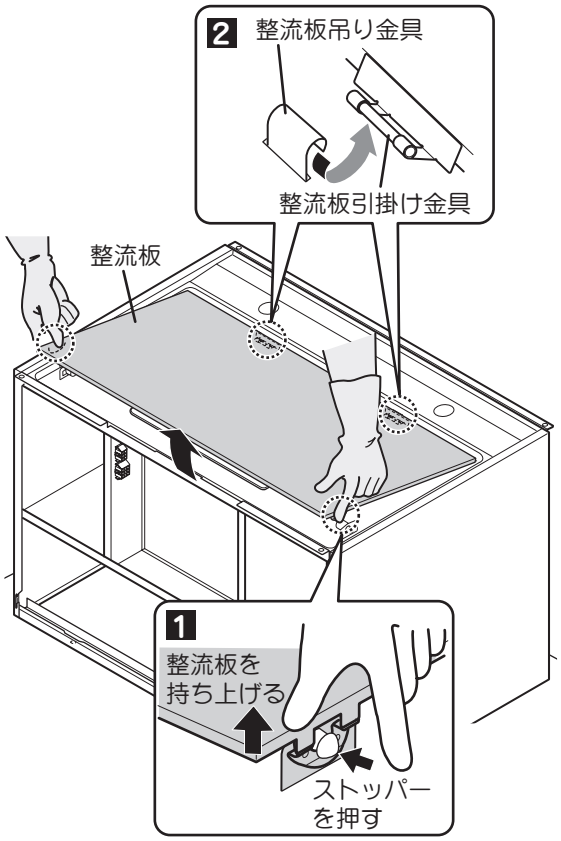
4 整流板をはずします。

■ 900 幅の場合

1）左右にあるストッパーを押してはずし、整流板を持ち上げます。

2）整流板の後ろを持ち上げ、整流板吊り金具から整流板引掛け金具をはずします。

※ 必ず左右同時にはずしてください。整流板吊り金具の変形の原因になります。

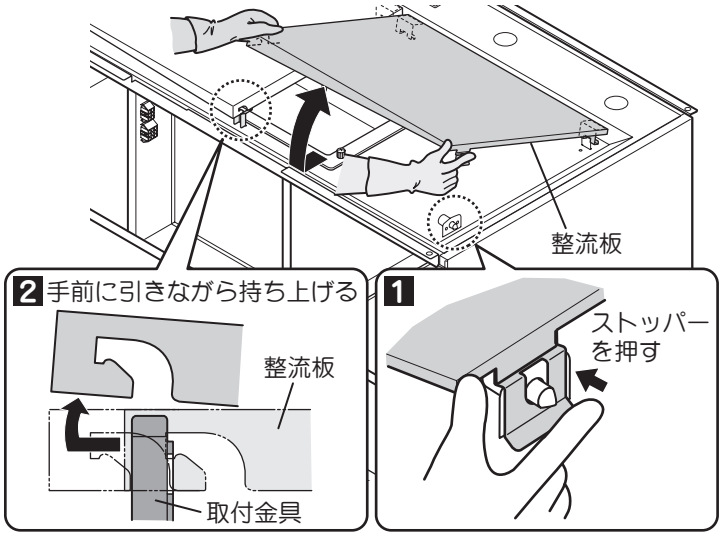


■ 1200 幅の場合

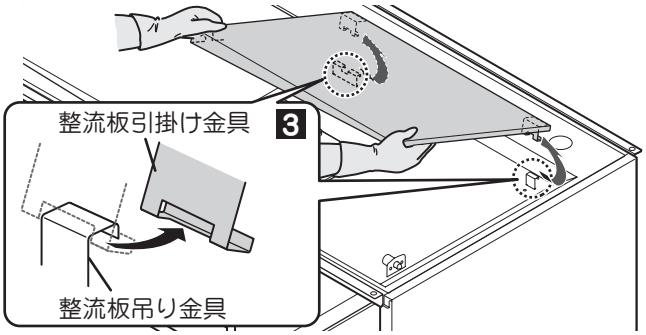
整流板は 2 枚あります。
取りはずしかたは同じですが、ストッパーは両方とも外側にあります。

1）整流板を両手で支え、外側のストッパーを押してはずします。

2）整流板を手前に引き、取付金具から整流板をはずして持ち上げます。



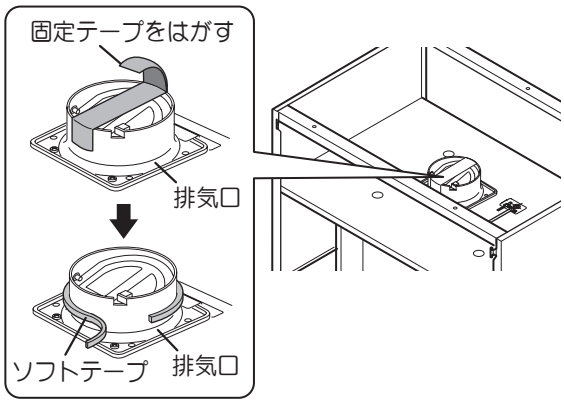
3）整流板の後ろを持ち上げ、整流板吊り金具から整流板引掛け金具をはずします。



取り付けかた

5 **排気口にソフトテープを貼り付けます。**

本体を正立（取り付ける状態）にさせ、排気口の固定テープを剥がしてから付属品のソフトテープを貼り付けます。



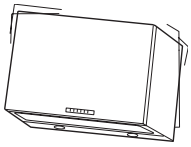
3. 本体の取り付け

⚠ 注 意

取付注意

● **レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと**

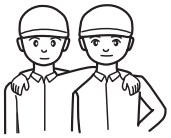
落下によりけがをすることがあります。



取付注意

● **作業は下記の人数で行うこと（900 幅：2人，1200 幅：3人）**

製品はおよそ 47kg（1200 幅の場合は 55kg）の重さがあります。



お願い

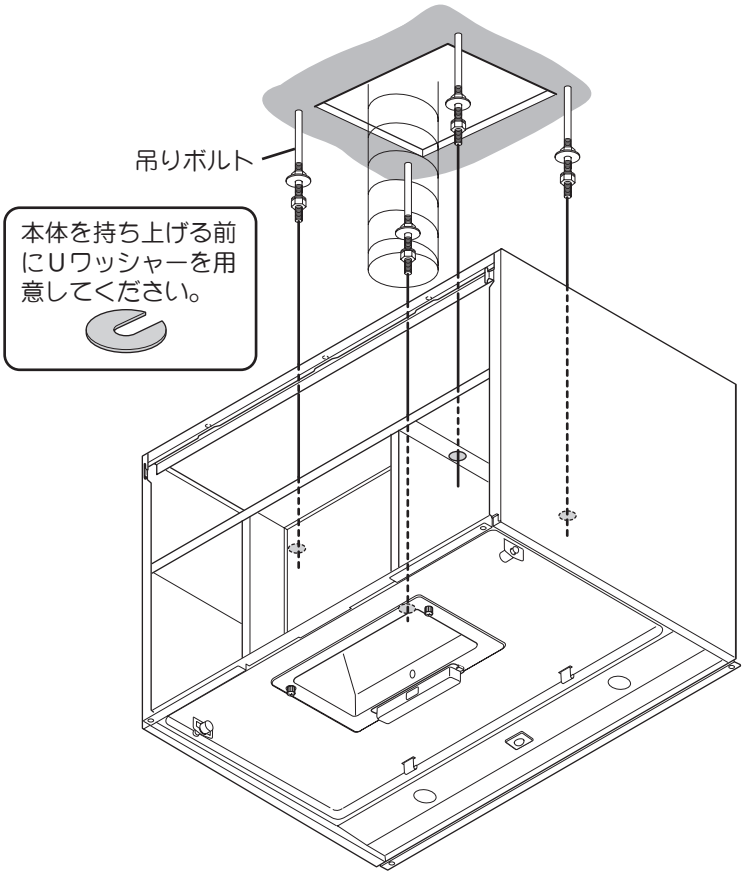
本体の取付方向を確認してください。コネクターソケットがあるほうが操作スイッチ面（前側）です。

取り付けかた

1 **付属品のUワッシャーを用意します。**

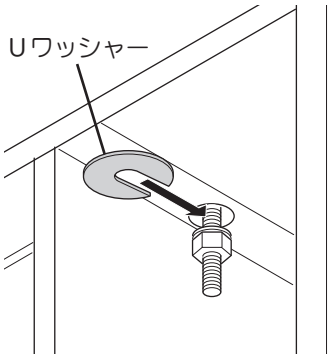
2 **本体を持ち上げ、吊りボルトに差し込みます。**

本体を持ち上げて本体の4ヶ所の穴に吊りボルトを差し込み、天井まで持ち上げます。



3 **Uワッシャーを取り付けます。**

Uワッシャーを本体と各吊りボルト（4本）下側のナットの間に差し込みます。



4 **吊りボルトに固定します。**

1）本体と天井面との間にすきまができないように下側のナットとワッシャーの位置を調整します。

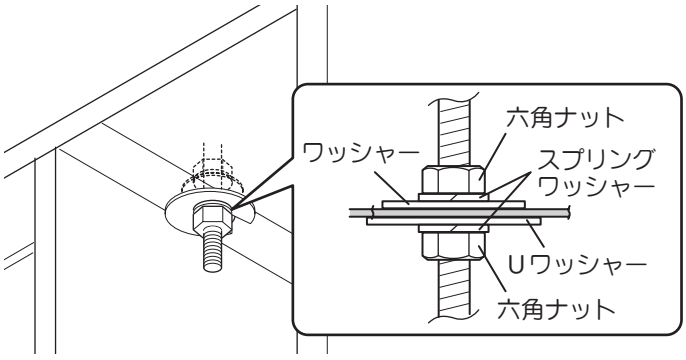
お願い

天井面に対し、六角ナットを締め付けすぎないようにしてください。本体・天井面にゆがみが発生するおそれがあります。

2）上側の六角ナットとワッシャーで製品をしっかり締め付けます。

お願い

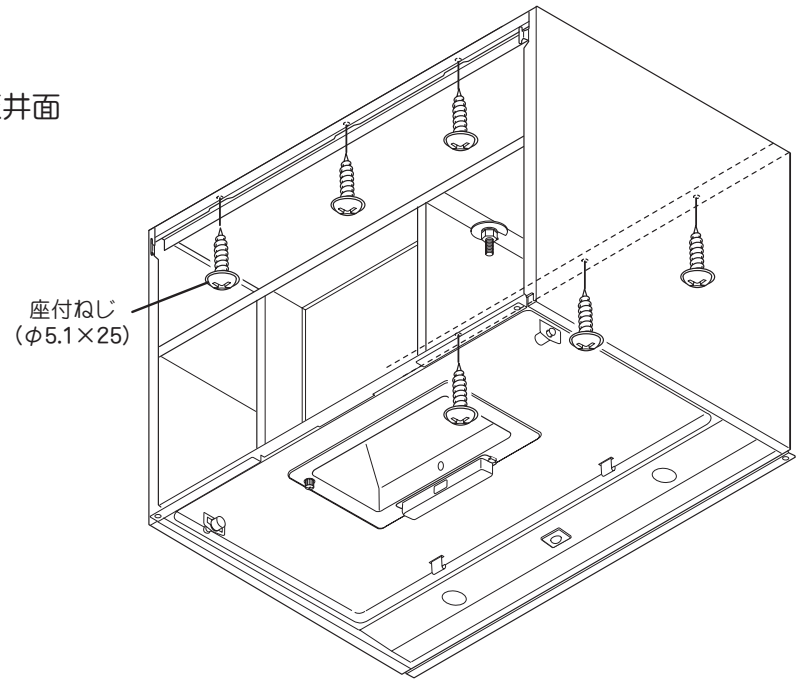
本体に傾きがないか十分確認してください。



取り付けかた

5 **本体を天井に固定します。**

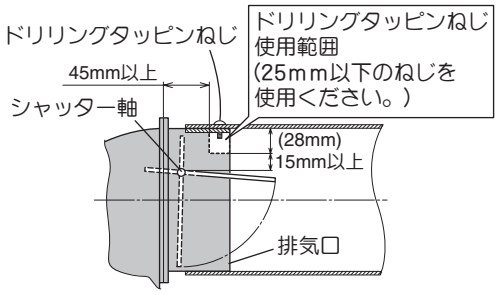
付属品の座付ねじ6本で本体と天井面（補強桟部分）を固定します。



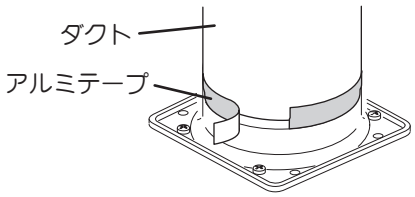
4. ダクトと排気用部品の接続

お願い

ドリリングタッピンねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじが当たらないように、図のドリリングタッピンねじ使用範囲内に固定してください。

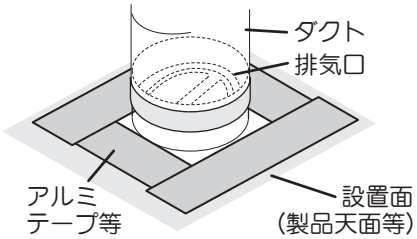


風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。



■ 排気口設置面の漏風確認のお願い

排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとすると、排気口と排気口の設置面（製品天面等）が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。
風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転（強運転）をおこなってください。
漏風する場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等（現場調達品）で漏風防止処置をおこなってください。



取り付けかた

5. 電気配線

⚠ 警 告

分解・修理・改造禁止

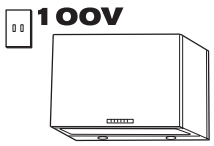
● **修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと**

発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります

使用禁止

● **交流 100 V以外では使用しないこと**

火災・感電の原因になります



取付注意

● **配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと**

誤った配線工事は感電や火災の原因になります

アースを取り付ける

● **アースを確実に取り付けること**

故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください

1 **アース（D 種接地工事）を取ります。**

※アース線は取り付け作業側にて手配します。

2 **分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。**

お願い

・電源は専用のコンセント（2 極差込接続器 15A、125V）およびブレーカーを設けてください。
・コンセントは電源コードの長さを考慮し、天井補強桟に設置してください（6 ページ「取り付け前の調査と準備」手順 4 参照）。

取り付けかた

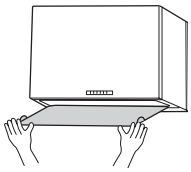
6. 前板および後板の取り付け

⚠ 注 意

取付注意

● **ファンや部品の取り付けは確実におこなうこと**

落下によりけがをするおそれがあります

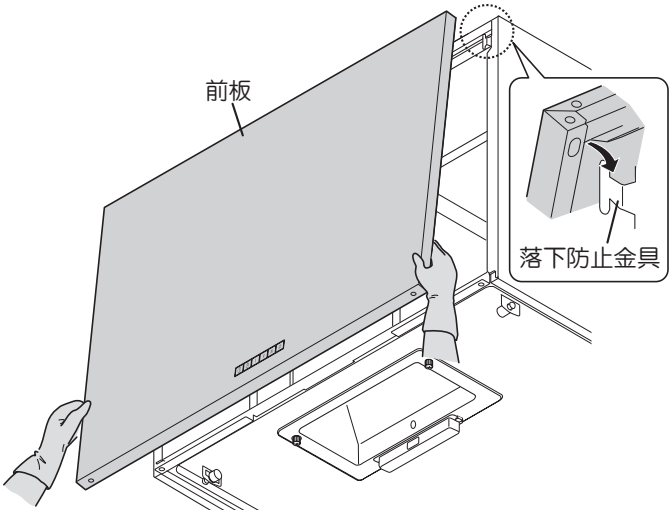


お願い

前板および後板を取り付ける際は、天井を傷つけないよう注意してください。

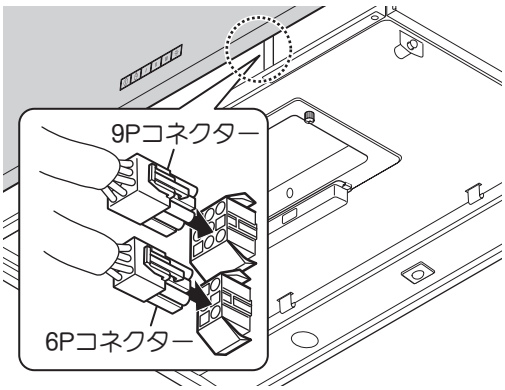
1 **前板を本体に引っ掛けます。**

前板を両手でささえ、本体上部左右の落下防止金具に引っ掛けます。



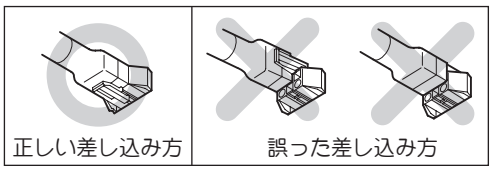
2 **コネクターを接続します。**

２ヶ所のコネクターを本体のソケットに正しく接続します。



お願い

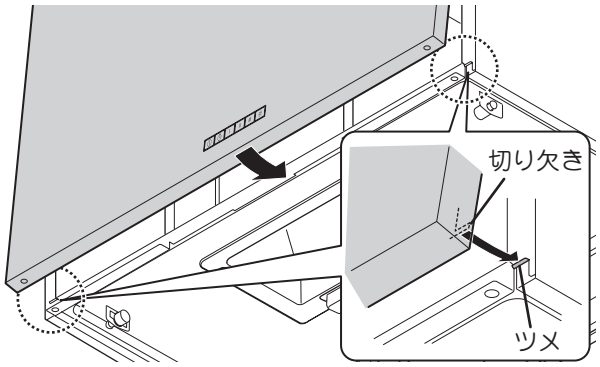
コネクターを挿入する際は、ツメの向きを合わせて確実にロックしてください。
接続が不十分な場合、レンジフードが動作しない、発熱による故障などの原因になります。



取り付けかた

3 **前板下部を本体にはめ込みます。**

本体下側の左右のツメに前板の切り欠き部を差し込みます。

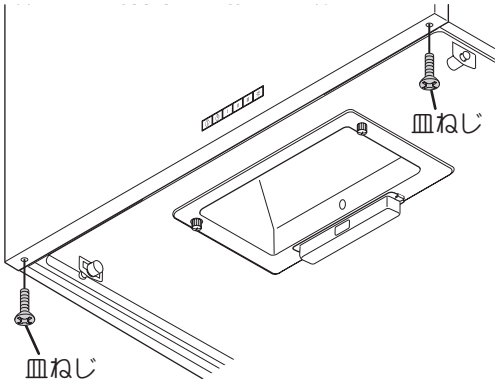


4 **前板を固定します。**

「2. 本体の準備」手順 3（11 ページ）ではずした皿ねじ 2 本で本体と前板を固定します。

お願い

皿ねじを締める際は、ねじ表面を傷つけないよう注意してください。



5 **後板を取り付けます。**

前板と同様の手順で後板を取り付けます（コネクターの接続はありません）。

7. 整流板の取り付け

整流板を取り付けます。

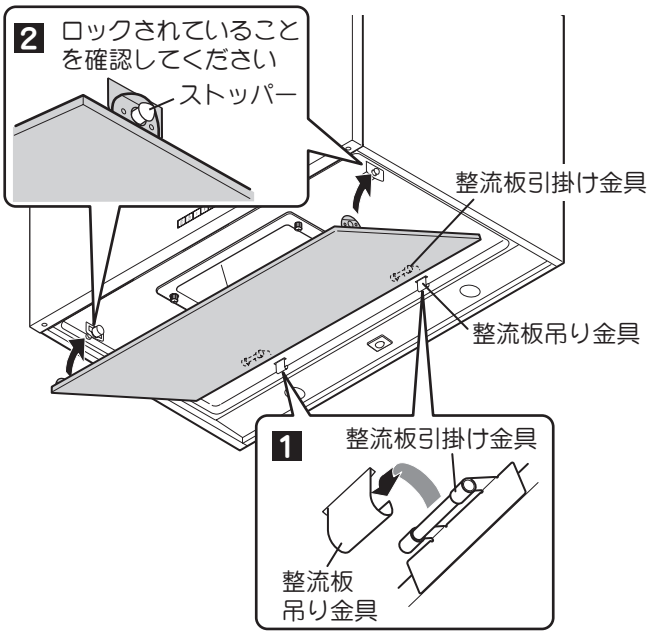
■ 900 幅の場合

1）奥側左右の整流板引掛け金具を、整流板吊り金具に確実に引っ掛けます。

2）整流板を両手で支えながら手前側を上に持ち上げ、左右のストッパーを押しながらロックします。
取り付け後は整流板を軽く上下に動かし、はずれないことを確認してください。

お願い

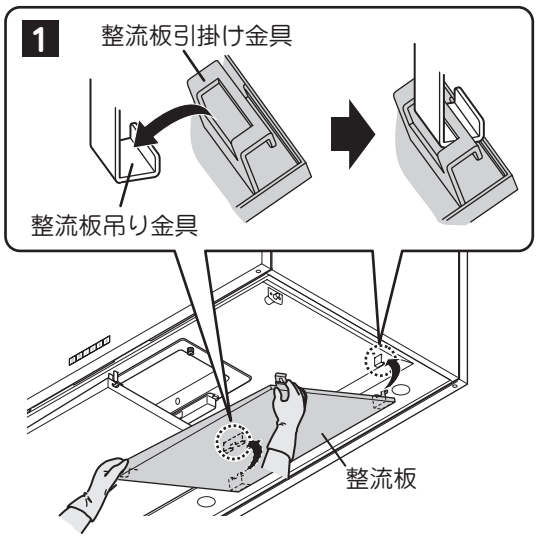
製品保護のため、「2. 本体の準備」手順 2（10 ページ）ではずした保護用クッション材と固定テープを元の状態に取り付けてください。



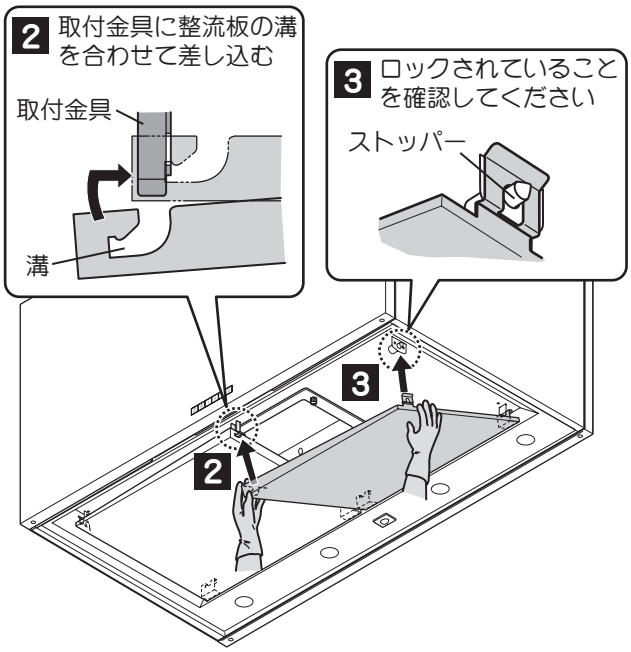
取り付けかた

■ 1200 幅の場合（整流板は 2 枚あります）

1）後側の整流板引掛け金具を、整流板吊り金具に確実に引っ掛けます。



2）整流板を両手で支え、手前に引きながら内側の溝と取付金具を合わせて差し込み、外側のストッパーを押しながらロックします。
取り付け後は整流板を軽く上下に動かし、はずれないことを確認してください。



お願い

製品保護のため、「2. 本体の準備」手順 2（10 ページ）ではずした保護用クッション材と固定テープを元の状態に取り付けてください。

取り付けかた

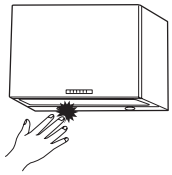
8. 試運転

⚠ 注 意

接触禁止

● **運転中は指や物を絶対に入れないこと**

けがをするおそれがあります



■ 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。
スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。

■ 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。

■ 異常な騒音、振動がないことを確認してください。

■ 屋外の排気出口から排気され、異常音がないことを確認してください。

■ 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

9. お客様への説明

■ 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。

■ 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様へお渡しください。

〔製造元〕富士工業株式会社　本社・営業部 〒252-0206　相模原市中央区淵野辺２丁目１－９
TEL 042(768)3754（営業部）